

英米文化学会会報

第 68 号

平成 18 年 7 月 15 日



シェークスピアが『ハムレット』の舞台にしたデンマークのクロンボー（Kronborg）城。遅い夏の夕暮れ、穏やかな海辺で人々は散策の足を止め、夕陽に映える城壁を眺めていた。城の窓からは、対岸のスウェーデンの街路をゆく人影も見えた。（撮影：佐野、2006年）

目次

大会担当より 英米文化学会 第 24 回大会のお知らせ
事務局より 大会の交通・宿泊のお知らせ
財務からの報告
事務局より 会員消息

英米文化学会第 24 回大会のお知らせ（担当：曾村充利理事）

日 時：平成 18 年 9 月 9 日（土）・10 日（日）

場 所：茨城大学水戸キャンパス 茨苑（しえん）会館

〒310-8512 茨城県水戸市文京 2-1-1

当日会費：一般 500 円 学生 300 円（2 日間有効）

9 日（土）受付開始 14:00

会長挨拶 14:30～14:35

会場校挨拶 14:35～14:40

講演 14:40～16:40

ジャズ演奏 17:00～17:30

懇親会（17:30～20:00）

英米文化学会会長 高取 清（文京学院大学）

茨城大学学長 菊池 龍三郎

『映画から見えるアメリカ』 君塚 淳一（茨城大学）

STAR FIELD JAZZ 3NOTES

茨城大学茨苑会館一階レストラン 費用は 3000 円

10日(日) 受付開始 9:00

研究発表 9:30~15:00

1. 犯罪ノン・フィクションはいかにして可能か? 映画『カポーターティ』、ドキュドラマ『ララミー・プロジェクト』に見るドキュメンタリー表現の現在

中垣 恒太郎(常磐大学)

2. 高校英語教科書から見た *The Japan Times* の語彙

谷 憲治(武蔵大学)

3. アラバマの音楽性と南部の文化背景

佐野 潤一郎(創価大学)

4. Ishmael as Cross-cultural Educator

Steve Redford(静岡大学)

5. *Jerusalem the Golden* に見る家族像 母と娘の関係を中心に

永松 美保(九州女子大学)

6. 俳優の運命を変えた劇 ヘンリー・アーヴィングと『ベル』

門野 泉(清泉女子大学)

研究発表抄録

1. 犯罪ノン・フィクションはいかにして可能か? 映画『カポーターティ』ドキュドラマ『ララミー・プロジェクト』に見るドキュメンタリー表現の現在
中垣 恒太郎(常磐大学)

2005年に公開された映画『カポーターティ』(*Capote*)は、中でもカンザスで起こった一家四人惨殺事件を素材に作家トルーマン・カポーターティが、ノン・フィクション・ノベル『冷血』(*In Cold Blood*, 1966)をいかにして作り上げていったのかを探っている。いわゆる犯罪ルポルタージュのジャンルに決定的な影響を与えた『冷血』であるが、一家四人惨殺事件の犯人ペリーを取り巻く現実のドラマに対し、いかにカポーターティが関わっていたのか、事件について取材し、物語るカポーターティの側に焦点を当てドキュメンタリーを再構成してみると、世界はまったく別の様相を帯びることになる。ここにはドキュメンタリーを取材する側/取材される側の問題が顕著に現れている。映画『カポーターティ』は、『冷血』の視点を反転させるかのように、事件を追う側の立場のカポーターティに焦点を当て、その眼差しの政治的力学の問題を浮き彫りにしている。ニュー・ジャーナリズムの先駆的作品として『冷血』がドキュメンタリー表現の幅を広げたことを考えても、ドキュメンタリー表現に「携わる」カポーターティ自身をドキュメンタリーの「素材として」問い直す、映画『カポーターティ』の試みは、まさにドキュメンタリーを取り巻く状況の変化を端的に示している。1998年のワイオミング州で起こった事件をもとにしたドキュドラマ『ララミー・プロジェクト』(*The Laramie Project*, 2001)など、近年の成果を参照しつつ、ドキュメンタリー表現は現在どのようにして可能であるのかを展望していきたい。

2. 高校英語教科書から見た *The Japan Times* の語彙

谷 憲治 (武蔵大学)

The Japan Times の記事を時事英語や新聞英語などの授業で取り上げる大学教員も多いと思われる。そのような英語教材としての価値を持つ *The Japan Times* を主たる英語読解教材として使用した時、高校生時代には新聞英語などおそらく自ら進んで読んだことがないであろう大学新1年生にとって、どの程度の困難が生じるのであろうか。この発表では、まず *The Japan Times* を読むために必要とされる総語彙数を、その様々な記事を集めたサブコーパスを分析することによって明らかにする。さらに、大学新1年生からの視点で *The Japan Times* の語彙の難易度を見るために、学生が大学入学までにもっぱら語彙増強の源としてきたであろう高校英語教科書のサブコーパスを作成し比較対象とする。その比較から、*The Japan Times* の既知語彙数と未知語彙数を知ることができる。また同時に、この比較結果から *The Japan Times* を使った大学の英語授業における習得語彙数のターゲットラインを明らかにする。教科書サブコーパスの作成には、現在の高校英語検定教科書においてシェア最上位であり最高学年用の教科書を使用した。

3. アラバマの音楽性と南部の文化背景

佐野 潤一郎 (創価大学)

現代カントリー音楽のヒット・チャートを賑わすグループのなかでも、アラバマ (ALABAMA) は突出して多くのヒット曲を送り出している。その曲と演奏はカントリーの伝統的手法を用いながら、歌詞においては特筆すべき傾向性がある。第一にアメリカ南部の誇りであり、第二に家族の絆であり、第三に平和への祈りである。それぞれに、他の地方との比較の上に成立する郷土愛、信仰心に基づいた家族像への懐旧、ベトナム戦争期の時代精神と60年代への回帰願望がみられる。これらの歌詞からアラバマが好んで描く60~70年代の南部の青少年像と、それを取り巻く南部の社会を浮かびあがらせる。付随する問題として、酒と恋愛をテーマとする曲を中心にヒットが生まれているカントリー音楽業界にあって、アラバマのこうした特徴をもつ曲がどの程度受け入れられているかについても考察する。

4. Ishmael as Cross-cultural Educator

Steve Redford (Shizuoka University)

In this presentation, I examine *Moby Dick* as a text that can shed light on the nature of cross-cultural understanding and suggest that Ishmael, as he first strives, then fails to fathom “the ungraspable phantom of life,” proves an insightful cross-cultural educator. Of course, Ishmael is preoccupied

with the human condition in its entirety, but he also sees the difficulties that arise when members of different cultures are brought together as a significant and representative aspect of the human condition, and he encourages us to see parallels between understanding the whale and understanding foreign cultures. Indeed, Ishmael reveals to us—through his interactions with the “savage” Queequeg, his observations on both his and his shipmates’ perceptions of the white whale, and his studies on cetology and his conclusions thereof—a great deal about the nature of both cross-cultural understanding—and misunderstanding.

5. *Jerusalem the Golden* に見る家族像 母と娘の関係を中心に 永松 美保（九州女子大学）

Margaret Drabble(1939~)の1960年代の作品は、若き女主人公が自己確立をして行く過程を描いたものが中心である。彼女の第四作である *Jerusalem the Golden*(1967)もこうした初期のテーマに沿ったものだと言えるが、前三作が一人称の語りであるのに対して、ここでは初めて三人称の語りを採用され、自己の経験の範囲から語りの視点を広げるという創作上の工夫がなされている。この作品の主人公 Clara Maugham は、Drabble が描く主人公達の中で彼女がその将来に危惧感を覚えると述べるほどその生き方が貪欲で危険を孕んだ人物である。だが、手に入れたいものは何でも掴むという Clara の貪欲な生きる姿勢というテーマの影で、*Jerusalem the Golden* には、母と娘を中心とした家族の確執 家族愛の欠如 という副次的テーマがあることに我々読者は気づく。そして、その家族愛が欠けた侘しい家庭環境が Clara の無骨な生きる姿勢と関連があると感じる。本発表では、代理の家族を求めようとまでする Clara の愛情薄い家族関係を特に、母娘関係を分析し、イギリス中産階級の哀しい家族のあり様を考察する。

6. 俳優の運命を変えた劇—ヘンリー・アーヴィングと『ベル』 門野 泉（清泉女子大学）

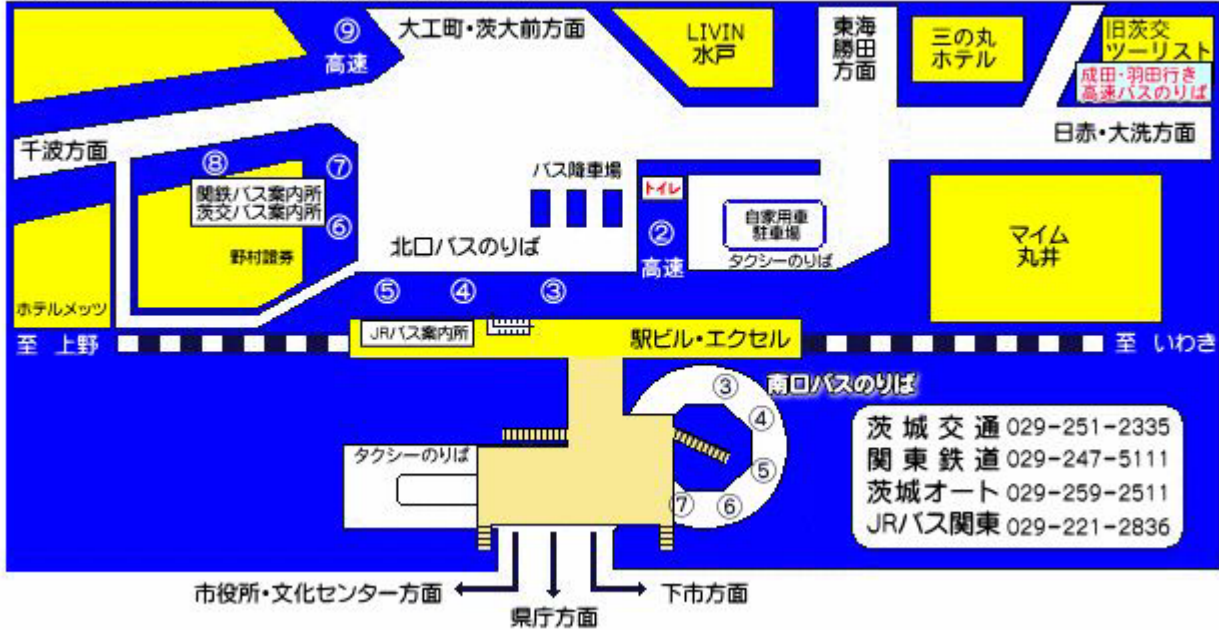
ヘンリー・アーヴィング(1838-1905)は、ヴィクトリア朝演劇界に一時代を築いたライシールド劇場のアクター・マネジャー(俳優兼劇場経営者)である。長い下積み時代を経て、ロンドンのライシールド劇場で『ベル』(1871)の主演マサイアスを演じ、一夜にして俳優としての名声を確立した。その後、エレン・テリー(1848-1928)とコンビを組み、約20年間、ライシールド劇場の黄金時代を築き上げ、俳優として最初のナイトの位を与えられた人物である。アーヴィングは『ベル』を上演するために尽力し、大成功を収めた後も、アメリカ巡業やヴィクトリア女王への御前公演などの人生の節目には『ベル』を上演し、生涯に800回以上もマサイアスを演じ続けた。本発表では、初演に至る経緯と初日の出来事、御前公演等に触れながら、『ベル』が俳優アーヴィングの運命にどのような影響を与えたのかを振り返り、この俳優の本質について考察する。

事務局（担当：大東俊一理事）より大会の交通・宿泊のお知らせ

* 大会会場（茨城大学水戸キャンパス）へのアクセス

JR 水戸駅（北口）バスターミナル7番乗り場から、
茨城交通バス「茨大行（栄町経由）」に乗車、「茨大前」で下車。
乗車時間30分。

水戸駅前バスのりば案内

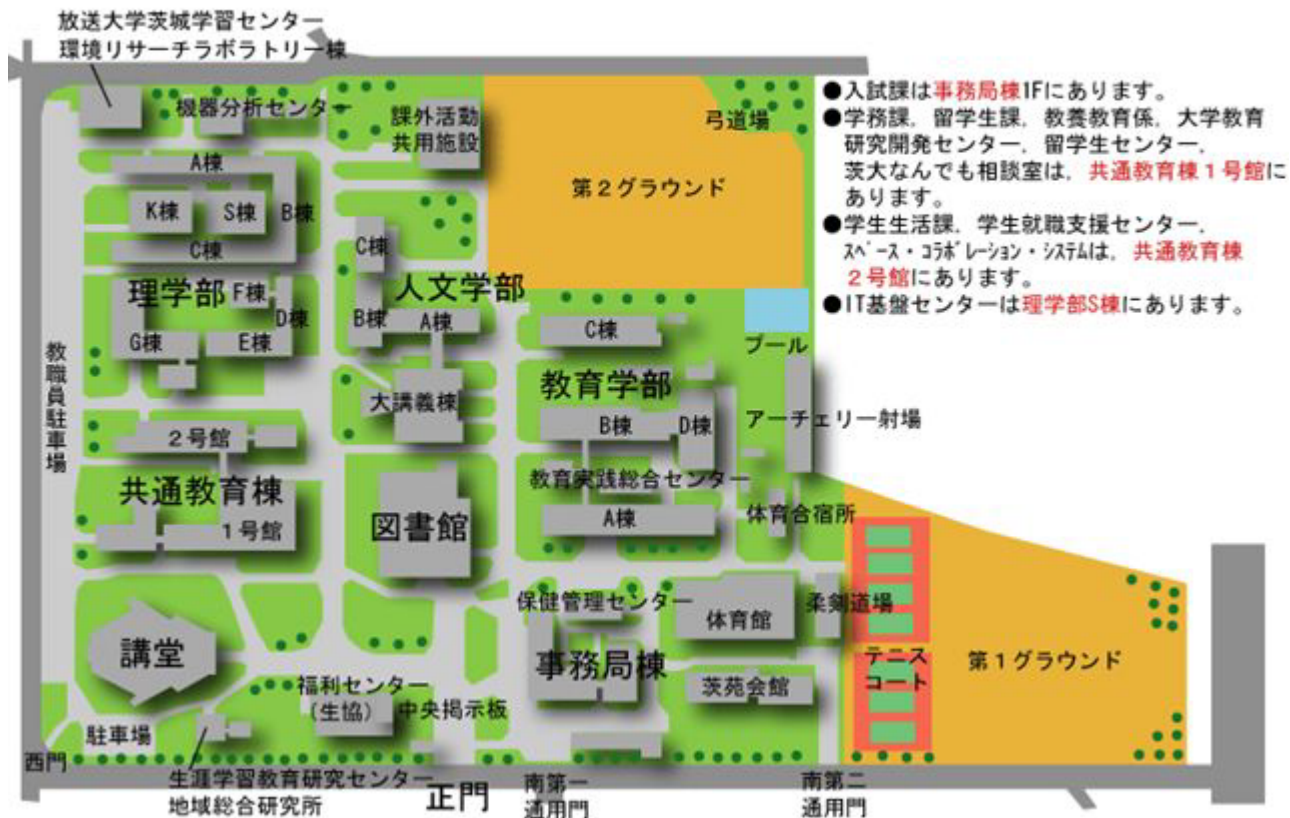


* 大会への出席に当たり、勤務校等へ「派遣要請書」の類を提出する必要がある場合には、事務局までご請求ください。

* 大会ポスターを同封いたしましたので、勤務校等に掲示頂ければ幸いです。
さらにご協力を頂ける方は事務局まで必要枚数をお申し付けください。

* 9月8, 9, 10日の緊急の連絡は事務局（大東：090-7833-7157）まで
お願いいたします。茨城大学当局へのご連絡はお控え願います。

茨城大学 水戸キャンパス(人文学部, 教育学部, 理学部)



* 宿泊について

水戸市内のホテルの予約は各会員でお願いいたします。学会としては斡旋いたしません。
参考までに下記に近隣のホテル名を記載いたしますが、
料金等はあくまで目安ですので、ご承知おきください。

- ・水戸京成ホテル(水戸駅北口徒歩3分)水戸市三の丸 1-4-73 Tel: 029-226-3111
11,865 円~(シングル1泊朝食付、税サ込)
- ・ホリデイ・イン水戸(水戸駅南口徒歩3分)水戸市城南 2-2-2 Tel:029-300-1100
8,500 円~(シングル1泊朝食付、税サ込)
- ・ホテルテラスザガーデン水戸(水戸駅南口直結、2006年オープン)水戸市宮町 1-7 Tel:029-300-2500
8,000 円~(シングル1泊朝食付、税サ込)
- ・ホテルレイクビュー水戸(水戸駅南口徒歩3分)水戸市宮町 1-6-1 Tel: 029-224-2727
7,980 円(シングル1泊朝食付、税サ込)・・・公立学校共済、私学共済組合員料金
- ・JR ホテルグループ ホテルメッツ水戸(水戸駅北口徒歩1分)水戸市宮町 1-1-1 Tel: 029-222-3100
7,200 円~(シングル1泊朝食付、税サ込)
- ・ダイワロイネットホテル水戸(水戸駅南口直 2006年オープン)水戸市宮町 1-7-44 Tel:029-303-3311
6,700 円~(シングル1泊朝食なし、税サ込)
- ・水戸プリンスホテル(水戸駅南口徒歩4分)水戸市桜川 2-2-11 Tel: 029-227-4111
6,300 円~(シングル1泊朝食付、税サ込)
- ・東横イン(水戸駅南口徒歩5分)水戸市桜川 2-3-40 Tel:029-221-1045
6,090 円(シングル1泊朝食無料サービス、税サ込)

財務からの報告（担当：山根正弘理事）

6月10日、例会後の臨時総会で、平成17年度収支会計報告と平成18年度予算案が承認されました。会計報告・予算案を掲載いたします。なお、会計監査は6月5日、山下信一・河村博旨両先生により厳正に行なわれました。

年会費（5,000円）の納入は、随時受け付けております。納入状況は、財務担当の山根(MasahiroYamane@SES-online.jp)までお問合せ下さい。

年会費：5,000円

口座番号：00160-7-611777

加入者名：英米文化学会

平成17年度英米文化学会収支会計報告書

平成18年6月10日

財務担当 山根正弘

自 平成17年4月1日

至 平成18年3月31日

単位：円

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	1,473,012	事務局費	290,000
学会費（175口）	875,000	学術委員会運営費	771,088
学会誌（35号）掲載料	302,500	広報費	101,245
印税	941,657	大会運営費	154,352
雑収入	27,726	例会運営費	169,905
		理事会運営費	90,981
		翻訳プロジェクト費	5,000
		IT担当費	38,085
		出版担当費	17,050
		分科会運営費	87,781
		評議員会運営費	80,388
		サーバー賃借料	113,400
		予備費	107,100
		次年度繰越金	1,593,520
合計	3,619,895	合計	3,619,895

上記会計報告について、厳正な監査の結果、適正であると認めます。

会計監査

山下 信一

河村 博旨

平成18年度英米文化学会予算案

平成18年6月10日

財務担当 山根正弘

自 平成18年4月1日

至 平成19年3月31日

単位:円

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	1,593,520	事務局費	250,000
学会費	900,000	学術委員会運営費	800,000
学会誌(36号)掲載料	377,500	広報費	120,000
印税	800,000	大会運営費	250,000
雑収入	20,000	例会運営費	170,000
		理事会運営費	120,000
		翻訳プロジェクト費	100,000
		IT担当費	50,000
		出版担当費	20,000
		分科会運営費	60,000
		出版助成費	1,300,000
		評議員会運営費	80,000
		サーバー賃借料	113,400
		予備費	257,620
合計	3,691,020	合計	3,691,020

事務局(担当:大東俊一理事)より会員消息

<会員消息>

省略

英米文化学会会報 第68号 編集/発行:英米文化学会 編集責任者:佐野潤一郎
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀5-27-23

英米文化学会事務局 〒339-8539 さいたま市岩槻区馬込1288 人間総合科学大学人間科学部 大東俊一研究室
Tel:048-749-6111(off), 03-5399-3395(home) E-mail:ShunichiDaito@SES-online.jp

年会費等振込先:郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

学会ホームページ <http://www.SES-online.jp/indexj.html>